





長浦寸大徳卷之三

目錄

秦兼美幽夏録

強盜河邊悪八島が事

柳情靈妖

富貴屋敷敷之辯

多浦寸右後卷之三

秦兼羨幽冥禄

羨之乃比深水形部秦兼羨といふ者ありし京家此学通
 あり。さうなき儒者おき相品徳舎れ屋形めさし。綱
 所乃領知を抄り。桐ヶ谷れ過し居住し。日夜儒書
 と講談し。五経易を通し。内人数輩市をり。性学
 を恣あして。専ら佛道とらる。こら。後。さうく。その
 つまにあし。別講。そあさ。むか。て。西民乃内。あ。ひ。士。と。あ
 農とかり。工とかり。とん。とせめて。商人も。か。し。う。
 かん。う。親。氏。と。あり。て。身。と。持。む。也。教。諭。と。り。書。目。と。三。卷
 依。し。人。性。を。正。し。世。乃。教。と。持。ま。あ。す。その。上。篇。の。畧。う
 い。と。く。先。儒。乃。い。と。く。天。を。別。理。あり。とい。つ。り。そ。の。體。を。以



いはらとと帝といひ。帝ハ即天也。即帝也。天也。上は即
 一天官。帝。揚。周。二。お。世。乃。じ。き。帝。王。れ。い。ま。次。小。あ。く。す。金
 親。氏。乃。安。終。乃。り。又。不。謂。二。天。九。七。三。十。二。天。十。方。れ。法。帝
 い。に。天。れ。鼓。し。て。帝。乃。多。き。る。也。こ。わ。を。と。ん。い。ま。と。階
 級。の。形。ら。れ。と。ま。ぬ。く。と。帝。又。割。據。乃。象。以。の。す。す
 ま。ぬ。く。す。漢。乃。張。道。陵。を。さ。む。ひ。て。天。師。と。す。す。豈。所
 あ。く。じ。や。宋。の。林。氏。の。女。を。取。て。妃。と。す。天。い。う。小。妃。あ。く。せ
 や。お。れ。て。い。の。理。の。い。の。所。を。入。の。て。に。つ。つ。道。陵。を。と
 ひ。聖。あり。とも。亦。人。鬼。あり。林。女。既。よ。死。と。是。又。遊。魂。の。と
 む。ん。う。と。う。と。と。い。は。じ。や。天。を。敬。ふ。所。以。て。此。統。と。を
 是。乃。天。と。慢。を。不。す。り。世。よ。人。只。天。よ。あ。れ。と。し。心
 世。故。よ。日。月。星。辰。の。光。同。而。お。お。れ。ゆ。と。見。ゆ。者。と。い。

こい天れ志とと。禰と福とと。降とをり。どのがて。地
 を志とと。丹高煌。い。て。れ。君。の。り。靈。臺。湛。い。天。乃。帝。あり。
 三。綱。五。常。眼。晰。の。日。月。星。辰。の。光。の。に。あ。く。と。や。礼。樂。は。度。れ
 明。白。正。大。の。子。の。風。を。お。お。れ。ぬ。よ。あ。く。す。や。を。れ。君。と。天。れ
 君。と。そ。く。し。兩。の。函。禰。あり。か。あ。く。す。教。を。以。て。と。ま。す。乃
 帝。と。その。の。帝。と。合。す。兩。の。君。福。あり。連。向。者。の。わ。を。依。
 愚。者。の。別。情。あり。其。編。篇。大。む。の。か。れ。と。と。時。急。美。獅
 病。を。ま。す。多。敷。日。瘞。活。と。す。り。り。て。排。紙。の。形。を。意。義。す
 て。各。書。と。と。む。し。い。の。理。致。て。は。る。い。ま。と。傲。と。は。鬼。林。あ。ん
 う。海。系。紙。紙。よ。ま。く。む。や。入。の。命。豈。紙。鏡。と。以。常。あ。ん。ん。や。
 吾。誰。と。欺。む。や。と。を。あ。さ。む。ん。や。と。て。世。是。遂。と。率。と。
 去。わ。れ。も。胸。が。や。り。や。暖。ま。わ。と。と。と。と。を。華。ら。す。門



多倫才大務
卷三

皆ゆらう備むゆ夫己小作り地前と備ぞんざんぐまゆり謀る
 子ありこいりしや流ぐ学城子拘りて通せ流滞してゆりあり。
 さりりゆとて罪痛なり。城子俗賤虚妄れ士んる儒者ぬ
 と犯りや流りたる大罪の友とあり花園子出入と流滞と位せ
 も罪律をわつと流滞し降して七ふとゆり大きに怒り述べた
 まよ音好音して礼謝して過を改せとむるまのい
 廿八面しん後ぬとも後子縛りて退て流滞といひ獄中
 をせてそのらを折服するべしと教率予を携びて下し
 附と父者作てゆりゆ道宝塔一雲あり僧堂の傍に立
 て香炉を執て居て父と父と再拜も我も又甲も後と僧塔を
 じりきて一川の火珠をとりて金盤のりきてせと父と頂戴
 してゆり平ととゆひゆくより道幽暗ゆてゆきゆり

ゆ我らもろろ河上流いさる。登て云古道施化地流る。流る
 又とよむいんる糸の流滞なり獄中れ業流くゆきと珠えと
 照し破るを頼むととゆりゆとて流滞暗の中ゆゆして人
 心所をうしてあか事を得とゆりゆとて一川の獄中に流滞
 不義と得とゆ地獄と云大きかかむと炭火をうたたりせじ
 莫のかりて流る罪人を啼て流滞もぼくせ火中れ鉄丸大き
 さゆいれとゆりゆを刺て人れ眼よ入十六六をばくして車にす。
 子魚をかろがこころし父と流いりて罪人も世にゆり因太倫と
 獲し。賊利の流る流滞親族をゆりて流滞とゆりゆり
 めて流滞をうたたり流滞の地とゆりゆ和をゆりゆ獄あり皆
 女人老少ゆドリり人下とに流滞入る一川の流滞をうけゆりゆ
 流滞かくるゆりゆゆり流滞の流滞をまろりすてゆりゆ

御さて古くもささう一尺半丈有れやうかしの世はあつ付
ひすうを城うのし園房はうらひ女の道とせりますとせし
乃家とあせ中てをきてあるとひもんもひむひかり新
南の一獄の園は地獄といふ地比こくのわを別鐘こつ人を
柱からうけて刀をひてはひ表れこくしうらまを以
あつあつ破をうけ終して又よみくふまをうらむんは肉
もりのとて運あして吾人を生かすもはる家とあふま
陰穢園獄といふ大糞の地獄といふて湯のこくまに臭
うて逃げくへくすもどもささささかみ人をうけて煮
こくくくくく漬爛と化して出るとわを燗の中よ入て
妙ふ灰うら糞ををほてうらぐに又人とわる。こわい人か
して教ふと信す。吾人をあまじくしものこにまはる。

奴とと裸あして。履刺鏡の繩とぬ八九人れ罪人をし。ありのかと
ぬ裸の者れ胸股の間の肉をさして燗の中あく煮くこわを
飯をよくうらじを業凡てひ喰して支辨りくのあし。是
皆人同官裸れ役人権をせしふして賄賂をへ世を欺ふを
ぬとらむとあひ所検所あくも表々虐業とせ肉よ
ひむうらふ重銀と受成と非義のふれを繰せ人をひきうり
己を利とけ者れを中よる悪業日比ひひむい友もよ
後うらむむもやうがなはるもむおらくく見終りて
ふゆ史者珠をせりて傍よ返り又玉帯よむゆま示し
てのをぬりくまらに吐後罪を改せ入し。じうれ非をぬ
半あられぬ改めど罪をまぬるはとて失ふを命して
送りくくし。せ時始りて繩を解。身自自由する事と

是は余のより勝も強力にて力かなく是も亦さうりも
此死のまゝいづれの子孫もほろびかたし。上業少く叔父乃信
して南都に赴く路りて凶賊ありむ叔父己も組あつと
危く入つに賊の喉笛に喰付て終りつらむ所。叔父
を助りあつと世も無八布とて呼ぶ。後中からる事あり
津に打殺しつらむ所乃信の成りて。盗案は力ありて
復かこひりつらむ所。後より法盗數十人あつとて活路
小幡山中より切取追剥して世も世も世次をくり
たり。年いまだ三十四とてせむる七尺より及び色白くや
らふして老よ好じて立烏帽子と着たりつらむ所。世の人
立烏帽子と見ふして怖しあつらむ所。或時つらむ所。たは合
も悪くわく事ありつらむ所。入真福寺のあつと寺院も是

いへて井より息ととめて人の跡も何を約居たり
あつと偽秘文をまて兒同宿よとの数ありひり
は華經を習ふ兒のあつと。今此三處皆是我其中衆
生。是吾子と云文より。吾を信和訓して。今よの處の
らぬこれわが事と。の内人あらは。是より子あり也。
まぬ。親そのれ。親をせむひつと。と。端りあつと八布と
る井りして。つらむ所。三處れ。衆生。これ佛乃子あり。と。ま
も仏乃子あり。一。つらむ所。佛乃子あり。と。吾もまは。は。ま
兄弟の物を盗らんと。不道乃と。これ。罪あり。と。思ふ。
起して。真のつらむ所。ゆりつらむ所。後いづく。あつと。れ
は。死なり。えたり。賊中れ。まらむ。つらむ所。れ。中。系。ま。持。つらむ
いづれ。ま。ん。犬。狼。鳥。獸。も。ら。つらむ。す。七日を。と。つらむ。つらむ。

長安十代中

四

じやうの益人らとめてうらな忍よりみづり転居たり或は
 怖と頼はらんこすくひもへし面をびりくもれく物り
 りも可し此の肝をとりて出ゆりぬまは真福寺
 の僧不浄を修せん為り毎夜葬場古墓とせんが
 う事よ違ぬ僧何れもて思ひ我ら立鳥帽子といふ城
 近くらり多物しとびりて此僧をとり表日比すはひ
 家無堂の家を寄せんともふやとこいおろし付て
 あり彼者やうの我を是て下先乃賊川也入るこ
 中もてうらす死して七日はゆりの成さしゆぬ事死こ
 とへく鉄車とす怖ろしき事と人あり我を取こぬて
 車車とすよ火乃車比持まり吾をとめてのせと神
 を火車に焼せん熱苦めひつり中へ人間は火とるわ



俄きとてあつらひの片山陰乃すゆひりて柳やまよ
 ちかきと柳のりそと雪をを志ねく張のりさうい
 何ううかきとて馬の鞍をむらぬとてと
 て一房をまわけくたはしけきさうさうとて
 衣裳とてて性をかちて友忠とてなうあ
 うめふれ且まうりてうりてさうわきさうわ
 うる山路の習い深り酒なと火のあてり兼定を
 一と釣とりてくけ先て盃ぬめらうとて友忠
 とてくじとてに西すま帰らう知い山家とてら
 きめとていんうらうらふすとも張の屋とてら
 らうとていんうらうらふすとも張の屋とてら
 して書紙とて友忠とて女心とてきとてらうら



あつ人もあつ唯大ききもの柳のまりのよりのて残るるごと
がひのりききこれらんやうとあひにききき流とほきかきく
ワウ終るるり。

富貴運数り辨

中は南都に後理を史何具ともわひて汗職のそめりいれ
ふ設しや寛て賈ありて物とりのさみも安うらひつり
うの職をまきく字田れ都のやうりりき山林
薪とま回島と耕し後世とす成何御所用ありて。然山
也よ赴しにいりうらうら日暮て道はゆふひとこもな
きことゆい運の森の心は焼火けのふとくわん婦く
あひうとに便て物とるに大きき社はありあんとくと
して林さびに取れよ文し人ねりいりる社やんとこと

あつりみゆい富にむらうれねぬを銀と次元がきききり
富貴者跡司と顔ありを笑りりり林のた職をわんを
神相もして富貴はまの向しゆりりり集を一生一衣
一夏一尊物備物依一盃物とる南とてあまはひしすり。
然もいもまきとまよひもあかく唯まらるるほとん休息の考
よ不足は恵りりる暇もあつととて人年豊るれも
純よきり手ととるれらめく富貴のちりり書子孫
よりやまれと伴しや交をるり枕難よ苦く歎くに所
かしく今湯とすよ大非富貴のりりりりり擡をまきく
是と知しつ字まありあつに得りりりり。是りが幸に
まらひねらうの威厳を教し苦は備来りりりり。然
幸の迷持を指し一松魚中もれ活をかきひり苦る



縣爵位をくしむ。又奪し國民を報せん事をせらざる。其國
を貪り銀千疋を受て、諸をまげて、おのれに縁たる銀五兩
を取て非理に良民を害とす。并君上成を奏し、罪をん
とす。中人、不宿福あり。此故は是非を、教年、以て、食をた
成族に禍し、ゆれば、おのれを、とらりて、凶惡を、とらる。只時を
取て、狩あくる、の、陸田、其境と、端し、押して、けり、穀を、合ん
とて、價を、矯し、て、を、を、奪し、利を、も、あ、と、と、進、する、あ
故に、おのれ、回、主、地、を、ゆ、く、人、終、す、を、く、成、ぬ、實、者、を、司、り、
て、進、擧、して、獄、に、入、る、又、も、を、他、して、判、する、事、と、陸、田、
に、推、して、る、は、肩、す、所、と、け、の、は、後、司、に、徒、終、て、お、の、れ、
眉、と、わ、げ、身、と、え、ら、り、て、農、司、は、謂、て、云、後、を、各、を、職、と、する。

乃中と法を善を廢衰し、怨を罪と、其地を、
奪り、國、の、ゆ、を、り、大、罪、ある、に、お、の、れ、
と、と、も、そ、れ、を、い、ひ、後、司、に、
終、り、我、を、も、り、く、并、君、を、
後、司、に、報、する、の、度、と、端、し、
起、り、其、内、の、人、民、三十、余、
を、か、り、て、た、者、は、お、の、れ、
を、報、し、助、か、り、給、炭、を、
後、司、と、知、り、各、教、し、
は、後、司、の、お、の、れ、を、
小、吏、を、令、ど、辱、れ、を、
福、禄、を、い、ん、え、し、

一 晴きらりぬふしう下しくおらんを哀やきるん其
 詳の申を承りてせしめし則ち其意を成て大きに十文字を
 書して是と授て五月に逢て磨く月よわして奈とも雲に逢て
 ゆくら同しよめて後きんをたまをいさる懐中して本群
 しゆらと云ん夜己まのいひの社も志す懐中を授け
 小朱書をし印ゆりて書子に看く悦びあり数日おひ
 月所日地中何かといふをたまたま神道に授けて月ごに
 三原の穀を送りて是より家形も安くその穀を授け教
 して在仁の号しきて来て細川山ふた小教ひを身七道通く
 山名が軍族に斯波来神に士と好む修理大史筆とか持
 して献てさるるに幕下よ仕して馬物具僕使あ
 ころをわたり一所懸命を地を領し同役は桃井實

希といふのたまを石わけてゆりて終て遂に斯波
 の領は同島一郡に代たすたまふるは神代乃日月雲
 此三字のみを換ありゆき思進はくみ散て非多をあらは
 己小二と勢と遠系或付を夫り夫紀乃終此は修系八道と造
 るは終境の根を書きゆを念外夫史系と下して因形ゆのさ
 いとかく内は風忽もゆて周れ字乃下に一尾を曳出し一乃因
 の字をとる大きに心よりゆて下夫も常して人ゆら
 じ此夜より疾をたぐひ自食がたにゆをわたりて湯茶を
 用ひて家成譜室をき垂し書子にいひゆを一遂に死を
 報乃速多所と神も遠ゆらゆら一お来り申あ計も遠は
 して應仁の号れらるるき三原内を戦れ戦死乃ち豊三平
 のくもらんやをいぬけりくくく普て下卒去れ濱ありて

